２　予算編成の概要

次に、令和８年度予算編成の概要についてご説明申し上げます。

令和８年度予算は、十分な財源を確保することが困難な中、経常的経費の増大などにより、極めて厳しい財政状況の下での編成となりました。

そのような中にあっても、第７次伊達市総合計画に定める目指すべき将来像「みんなが豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち」の実現に向け、基本理念「子どもの笑顔が真ん中にあるまち」を軸とした各種施策を着実に推進することを基本とし、予算編成方針に沿って、慎重かつ厳正に予算編成を行ったところであります。

はじめに、歳入について申し上げます。

市税につきましては、北海道電力伊達発電所の休止に伴う法人市民税の減少を見込んでおります。一方で、人口減少が進行しているものの、賃金水準の引上げや共働き世帯の増加に伴う個人市民税の増加が見込まれることから、全体としては令和７年度と比較して約1．8%の増としたところであります。

また、地方交付税につきましては、国の動向を踏まえ、前年度と同額を見込んだところであります。

ふるさと納税につきましては、ＰＲ戦略の強化や魅力度向上に向けた取組の成果もあり、令和７年度と比較して１億円増の５億円を見込んだところであります。

次に、歳出について申し上げます。

図書館整備事業が一段落したものの、長期化する物価高の影響により、人件費や物件費をはじめ、扶助費といった社会保障関連経費等の経常的経費が増大しております。

更に、道路等の公共インフラや公共施設の老朽化に伴う維持補修費の増加に加え、暴風雨により崩落した大滝区内の市道の災害復旧費を計上したところであります。

このため、既存事業の在り方や経費の精査に最大限努めて参りましたが、歳出総額の抑制には限界があり、最終的には多額の財源不足が生じる結果となりました。

これに対し、財政調整基金及び備荒資金の取り崩しにより補填することで対応せざるを得ず、極めて厳しい予算編成となったところであります。

このような厳しい財政環境ではありますが、地域医療体制の確保及び強化に必要な予算を確保するなど、市民の皆さまが安心・安全に暮らすことができるまちづくりに資する施策につきましては、重点的に予算を配分したところであります。

この結果、

一　般　会　計	２０５億６，０９２万円
特　別　会　計	８８億８，４３１万円
水道事業会計	１８億９，６９５万円
簡易水道事業会計	１億８，３１５万円
公共下水道事業会計	２０億８，４９１万円
合　　計	３３６億１，０２４万円

となり、前年度の当初予算に比べて、
４，３５９万円、０．１％の増となったところであります。